

これまでも再々述べて来ていますように、今年の気象は異常続きが続出、何と4月中旬過ぎとは言へ20日、21日には、各地で30℃を超えるという真夏日の記録が続出しています。気象庁はこの3月以降の気温高に対して「異常気象」とは発表してはませんが、3月30日にTV朝日で流された気象予報士のつぶやきをお伝えしておきます。

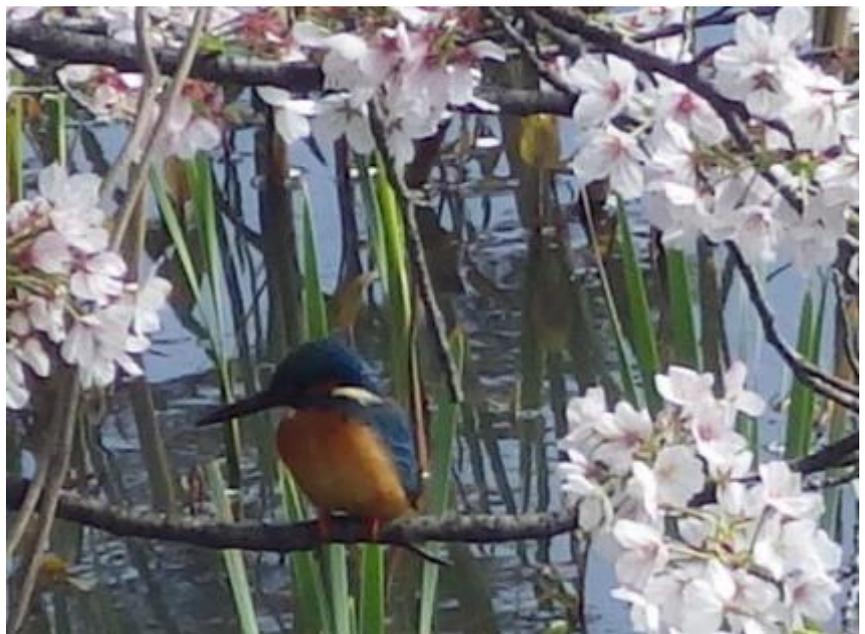
「2023年の3月は、多くの地域で“過去最も暖かい3月”となりそうです。日ごとの最高気温を振り返ると、3月の観測史上1位を記録した地点数が292もあります。気温の観測は915地点で行われているので、全体の約3割に相当します。東京都心は3月1位には及ばなかったものの、24日の最高気温が25.0℃と、3月として10年ぶりの夏日になりました。この暖かさが長く続いたため、北海道から中国地方で軒並み、月平均気温が3月の観測史上1位となる見込みです。札幌や東京都心、名古屋、大阪、広島など、130年以上観測を続けている地点でも、これまでの記録を塗り替えそうですから、ただただ驚くばかりです。4月も北日本と東日本を中心に気温の高い傾向が続く見込みです。春だからと油断せずに、こまめな水分補給など熱中症対策が必要となりそうです。この暖かさで、今年は桜前線が統計史上最も早くみちのく入りしました。きょう正午時点では仙台まで北上しています。来週には東北北部にも桜開花の便りが届きそうです。」

今年の春3月の気温の傾向は上記の”つぶやき”で言い尽くされていると思います。この気温の経緯に加えて4月一時的な寒気の南下はありましたが、平均的に観れば暖かさが継続、これには伴い「サクラ」のみならず、草木の展葉や開花は1週間~10日以上も早くなっているのではないかと思います。

なお、全国的な「ソメイヨシノ」の開花や満開日に関しては平年に比べての差異などは別報でまとめお知らせしたいと思いますが、地域別に見て行くと必ずしも全ての地域で平年より”早く”なっているわけではありません。元々、冬季の平均気温の高い地域では気温が上がれば、「休眠打破」の期間が遅くなる為であることは既にご承知のことと思います。

さて、今年地域グループ、及び個人による「ソメイヨシノ」の観測については、前報で少しのべましたが、夙川Gでもやっと4月18日に残花5%を切り観測打ち切りといたしました。本件に関しては、科全体で纏められるでしょうが、1ヶ月も通いつめると色々な動植物の生き様にも出会います。その中から中山さんの撮られた一瞬の出会い掲載させていただきます。

この舞台は観察地、片鉾公園ですが、近くの松の大木の樹冠にコサギ、アオサギが営巣しており、何時も数羽は留鳥のバン、カルガモ、時々訪れるゴイサギと共に水辺で見られるのですが、カワセミの姿を見かけたのはこの1回だけでした。サクラにカワセミいいですね。



前回は私的な桜探訪記で住居周囲のサクラの紹介でしたが、本報では残ったサクラの本年度の記録を中心に書き下そうと思います。前々報に続きサクラの開花記録から・・・。

1, オオシマザクラ

例年、ソメイヨシノより数日早く開花する。写真は、近くのマンションの前庭の植込みソメイヨシノの15, 6本の植込みであるが内、3本がオオシマであることに気づき観測対象としている。写真は3月23日、中央のソメイヨシノが開花した時期、既に3分咲き近くとなっている。過去と今年の開花記録は以下の通り。



	開花日	満開日
2020年	3月19日	3月29日
2021年	3月16日	3月25日
2022年	3月24日	3月29日
2023年	3月18日	3月24日

2, ソメイヨシノ 個人の観測標準木

2020年から、ソメイヨシノの観測を始めているが、観測木用標準木には近くの公園の樹を選んで観測をして来ている。この樹は、以前から附近では最も開花が早く、周りのソメイヨシノ及び大阪の開花日より2, 3日早い傾向があることから選択したものである。今回の樹のクラス分けでは周囲178cm、主幹が地上2m程で切られ、横枝が張った樹形のものでSクラス、剪定「強」に分類される。これまでは単に開花、満開日を観てきたが、この結果は下表の通りである。ほぼ、2021年と同様な開花状況であった。

観測標準木の開花・満開日

c f. 大阪気象台・大阪城

	開花日	満開日
2020年	3月21日	4月 1日
2021年	3月16日	3月26日
2022年	3月23日	3月29日
2023年	3月17日	3月26日

	開花日	満開日
	3月23日	4月 3日
	3月19日	3月28日
	3月23日	3月30日
	3月19日	3月27日



ただ、本年は花の終わりまでを観ることも項目に加えられたので観測を続けましたが・・・。他の枝の花が4月15日には見られなくなったのに、前ページの写真の枝のみは4月18日時点でもなお花を残していました。写真のように、この枝は樹本体からは弓なりに7、8m伸びた比較的細めの枝です。

このような現象は従来からSクラスの横伸びの枝ではしばしば見られ、休眠打破の遅れではなく「揚水」が関係しているのではと考えています。皆さまの観察地でこのような現象見られなかったでしょうか？

3. ジンダイアケボノ

上述の「ソメイヨシノ」は戦後1950年以降に各所にさかんに植えられるようになり、「桜」と言えば現在でも「ソメイヨシノ」を指すことが多い。一方で樹の老齢化、心材部の腐食による寿命説や、テングス病などにかかり易いなど問題となって来ており、植え替えの時期になって来ています。この植え替えを期に代替できる「桜」が求められるようになって来ていますがその最有力候補が「神代曙」という品種。

1912年に日本からアメリカのワシントンDCに寄贈された「ソメイヨシノ」と、別種の桜がアメリカで交雑してできた実生の桜に米名「akebono」という品種があります。これを逆輸入して日本の神代植物園で接ぎ木して育てたうちのひとつが、「アメリカ」と異なった特徴をもっていました。それが「ジンダイアケボノ」です。

「ジンダイアケボノ」は、「ソメイヨシノ」より木が少し小さく、開花が1~2日早く、ピンク色が少し濃い色をしています。花により濃淡があり、花色が自然なグラデーションになるのも特徴です。もちろんテング巣病にかかりにくい品種です。それ以外は「ソメイヨシノ」によく似た特徴の桜とのこと。

私の附近では、本品種は見当たりませんが、斉藤さんから京都植物園で撮影された写真をお送りいただいたので借用、掲載致します。右：上がジンダイアケボノの花（弁）、下はソメイヨシノの花（弁）。



4. カスミザクラ

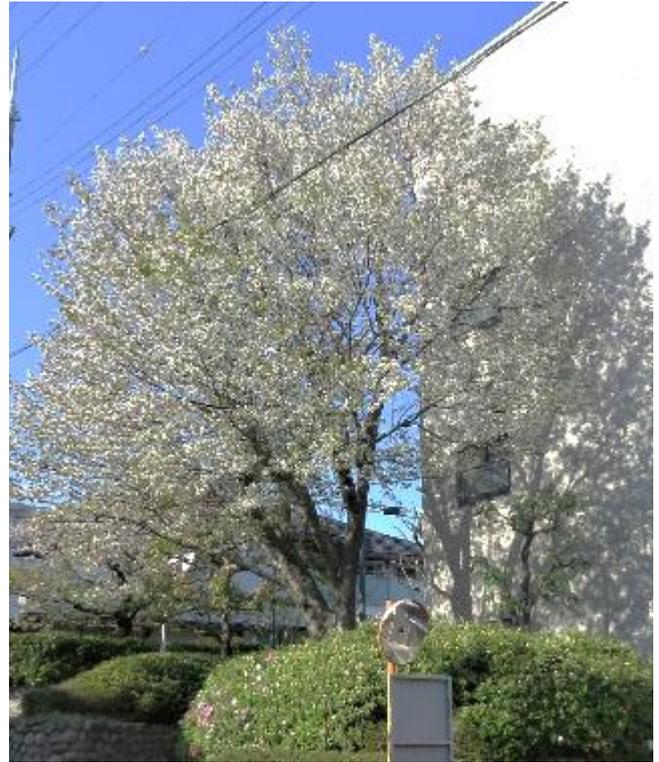
本来は、山中で見られる本種が近くのマンションの庭に植えられていることは2021年のサクラだよりで報告しました。この樹は高さ10mに近く満開時には見事な姿を見せてくれます。このマンションには一般のソメイヤマザクラは1本も植えられていないが、シナミザクラやセイヨウミザクラが植えられているなど一風変わった植栽です。

以前は満開の時期になって気付くという状態でしたが、今年は、パトロールを強化、開花日が4月4日、満開日が4月9日、花の終わりが4月13日と記録出来ました。因みに、過去の満開の期日は

2021. 4.5 満開

2022. 4.11 満開 でした。

芦屋市・翠ヶ丘町で



5. 甲山森林公園のヤマザクラ

近くの甲山森林公園には多種多様なヤマザクラがあり、3月下旬から4月下旬にかけて開花を見ることが出来ます。丁度この頃には、毎週展葉調査が行われるのでこれに便乗してお邪魔虫として観察に出かけています。今年は3月27日、4月3日、の展葉調査、さらに4月20日の定例の公園を利用した観察会が実施されるので参加しました。今年は、ここも開花が早く3月27日には、下のシンボルザクラ・・・開花すると麓からも見えることから誰言うとなくこう呼んでいる・・・が満開となっていた。褐色の葉と薄いピンクの花をつけるヤマザクラのお手本のような品種であるが、一部の花で下の様な、オシベの花弁化が見られた。一重の桜でこのような変異が観測されたのは初めてであった。偶然なのか、本種に特有なのか今後の観察が必要であろう。



次に訪れた、4月3日は正にヤマザクラの開花オンパレード
褐色の葉と白花、淡紅色花、さらに緑色様で白花種など多くの
種がみられた。因みに、ここのソメイヨシノの満開は既報のよ
うに1週間前、写真は全て「ヤマザクラ」の姿である。



*中央入口付近とミドリ橋からの映像、

*下は4月20日、遅咲きのヤマザクラ遠望。手前の樹にも咲き残りの花。

*本報告で、今年の附近のサクラの報告は終わります。

*全国の今年の開花・満開については近々まとめて別に報告します。

最後にシナミザクラの今！以上

